

# 環 境 水 道 委 員 会 記 録 (No. 19)

1 日 時 令和6年2月9日(金)  
午前10時00分 開会  
午前10時20分 閉会

2 場 所 第6委員会室

## 3 出席委員(9人)

委 員 長	富士川 厚 子	副 委 員 長	河 田 圭一郎
委 員	吉 村 太 志	委 員	田 仲 常 郎
委 員	井 上 秀 作	委 員	本 田 忠 弘
委 員	森 本 由 美	委 員	出 口 成 信
委 員	松 尾 和 也		

4 欠席委員(0人)

5 出席説明員(0人)

## 6 事務局職員

委員会担当係長 梅 崎 千 里 委員係長 伊 藤 大 志

## 7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	行政視察について	委員会での意見を踏まえて、正副委員長で協議し、視察先の優先順位を決定することとした。

## 8 会議の経過

○委員長(富士川厚子君)開会します。

本日は、所管事務の調査を行い、行政視察について協議を行います。

委員の皆様から御提出いただいた視察先の案について取りまとめを行い、正副委員長案

としてお手元に配付しております。

前回の委員会で決定しましたとおり、本日は、この案の中から皆様の御意見を伺い、視察先の優先順位を決定いたします。

今後の作業としましては、事務局において視察先との受入れ交渉を行い、最終的な視察先、日程等の案を提示させていただきたいと思っております。

それでは、お手元配付の案について、それぞれ提案者から提案理由の説明をお願いいたします。

どなたか、提案された方。最初は、防火防災活動と災害に強いまちづくりについて、御提案いただいた方から御説明いただけたらと思います。出口委員。

**○委員（出口成信君）** 6番の世田谷区建設団体防災協議会、ここなんですけど、ここにありますように、世田谷区と、災害時における応急対策業務に関する協定書を締結していると。これは建設団体ですよ。同協議会の活動を視察してみたいんですけど、日頃から建設団体と区が協定を結んで、災害時に協力体制をつくるということで、瓦れきの撤去とか道路の整備とか、倒れた家屋の撤去、中から人命を救助するとか、やはり地元の建設業界の方はそういう家屋の構造にも詳しいので、解体撤去とか人命救助にも非常に優れているということで、日頃からそういう方々と結びつきを持っているということなんですけど。もう一つの理由は、これは区内の建設業者さんが会員となられているわけですけども、この方々は区立の小・中学校の改修とか改築とか区内の住宅の改修、改築なんかをやっているんですね。でも、今、皆さんも御存じのように、コロナやウクライナ侵攻で、また、円安とか資材高騰、半導体の不足で設備機器不足になって、仕事があっても仕事できないと、そういう状態が続いています。

建設業というのは、若い人たちが入ってこない、高齢化も進んでいる産業の一つだということなんですけど、一方、地震災害、自然災害、地域に建設業がないと、先ほど言いましたけど、瓦れき撤去、人命救助をやる人がいなくなってしまうということで、活動されているわけですね。建設業界は地域外への資金の流出も多い産業だということ、例えば住宅を建てるとき、住宅を買うことが多いわけですね。建て売り住宅とか、また一般メーカーですよ。地域の工務店の仕事というのは、小さな改修工事になっていると。また、公共工事でも、元請が区内事業者でも、下請、また再下請となると、地域外から人を呼んで仕事をやっている。

そうした中で、建設団体防災協議会、建防協と略して言うんですけど、区内の公共、民間を問わず地元業者が受けられるように、地域の下請、そして雇用につなげていく取組を進めていきたいと考えています。また、区内事業者だから仕事を取れるというわけでもない、SDGs、また環境に取り組む事業者が消費者や公共事業でも選ばれる仕組みづくりのために、そういう事業者を育成していくこともこの団体の仕事だとして取り組んで

いるということで、これは世田谷だけの問題ではないと思いますので、視察先に選ばせていただきました。以上です。

**○委員長（富士川厚子君）** 森本委員。

**○委員（森本由美君）** 5番のジェンダーと多様性の視点を考慮した防災対策について、場所はいろいろそういう取組をしているところが、総務省の事例があったので、そこからピックアップしています。場所というよりもテーマなんですけど、能登半島地震が起きて、避難所の開設がありましたけど、1か月たってもなかなか環境がよくないということで、やはり多様な方が避難所の運営とか防災の施策に参画することが重要ななと思ったので、このテーマを選んでいきます。

大阪府堺市は同じ政令市でありますけど、研修を通じて全職員の男女共同参画の視点からの防災意識を向上させたり、防災会議がやっぱり女性の委員が少ないということなんですけれども、登用を増やしたりということで、成果を上げています。兵庫県明石市は、前の泉市長のときにいろんな思い切った施策をされているんですけど、防災会議内に専門委員を設置して、ジェンダーと多様性の視点を考慮した計画に改定されています。鳥取県は、条例で防災会議委員の男女比の均衡を規定し、女性の参画を実現して、施策を見直したりしております。

このテーマでどこか行けたらなと思っておりますので、ぜひ皆さん賛同いただければと思います。以上です。

**○委員長（富士川厚子君）** ありがとうございます。じゃあ私、いいですか。副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

**○副委員長（河田圭一郎君）** 富士川委員。

**○委員（富士川厚子君）** 1から4は私のほうで出させていただきます、1番はつくば市にある防災科研というところで、大型の降雨実験やE-ディフェンス等の視察ができて、いろいろ体験ができるというところで選ばせていただいたのと、2番は、熊本で数年前に地震があつて、豪雨災害等もあつて、熊本県防災センターというところで災害対応の拠点、防災学習ができるということで、これも挙げさせていただきました。

3番は、ドクターヘリというのは福岡は久留米しかなくて、お金がかかるんですけど、消防ヘリとまた違うということで、ドクターヘリの必要性とかもあるのではないかなと思います、候補に兵庫県と名古屋市と福岡市、あと病院が持っているそうなんですけど、挙げさせていただきました。

4番は、前回の視察のときも挙がつて、交渉していたんですけど日程が合わなくて行けなかった、そなエリア東京。防災拠点の整備と防災体験ということで、大規模災害は経験したときにはもう学ぶことというよりも実践になりますので、それ以前に大規模災害に備

えての広域防災拠点ということで、公園も整備されておりますので、そういうところを見に行けたらいいなと思い、提案させていただきました。以上です。

**○副委員長（河田圭一郎君）** 委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

**○委員長（富士川厚子君）** 次に、2枚目の、SDGs未来都市にふさわしい環境政策の推進についてということで、御提案された方で理由を御説明をお願いします。本田委員。

**○委員（本田忠弘君）** 私は14番の、SDGsやCO<sub>2</sub>削減につながる行動を市民に促す取組についてということで、東京都江戸川区が、昨年10月ですかね、e i t oというアプリを導入しました。SDGsの最終年が2030年ですけど、ちょうど去年が折り返し点、中間点だったと思いますけど、SDGsも北九州市におきましても知名度は上がってきたんですけど、どうすればSDGsを推進していけるかということが多分分からない方もたくさんいると思います。そこで江戸川区は、SDGsに関心はあるけど何から始めればいいのか分からないという人のための、SDGsへの参加をお手伝いするアプリを民間と協働で開発してみたいです。

このe i t oというアプリなんですけど、利用者は、5種類の課題のうち1つ以上達成するとe i t oポイントを20ポイント獲得すると。デイリーチェックはどんなものがあるかといいますと、例えば洗濯物をまとめて洗うとか、マイバッグを使うとか、徒歩や自転車で外出する、食品をフードドライブに寄附するという、環境関係にかなり、CO<sub>2</sub>削減ということに、かなりそういうデイリーチェックが入っていますので、そういうものを1つ以上達成すると20ポイント獲得して、それを区内約70店のアプリ登録店舗でお得なサービスと交換できるということです。それからまた、アプリを通じて、実践したSDGsの行動の成果は、その貢献度に応じて、ホーム画面上の苗が成長したり、CO<sub>2</sub>削減量が木の本数で確認できたりと、見える化されているということで、SDGsへの意識向上につながっているということになっております。

昨年10月からですから、5月ぐらいに行くとすれば、導入してから半年間ぐらいたちますんで、導入前と導入後の区民の皆さんのSDGsに対する意識がどう変わったかということを確認できると思いますので、かなりいい成果が出ておれば、北九州市でもこういうようなものを導入する意味があるのかなと思いましたので、視察先に選びました。以上です。

**○委員長（富士川厚子君）** ありがとうございます。河田委員どうぞ。

**○委員（河田圭一郎君）** 事業系ごみの減量に向けた取組についてということで、一般ごみ、生ごみと違って、事業系のごみというのは何でもかんでも捨てられるんです。事業系のごみの中に、家庭で使っている小さいガスこんろ、こういうのも一緒に入れておけば、事業系のごみとして持っていってもらえるんです。

それで、私のところの前にごみステーションがありますけど、そこにこんろが捨てたまんまですけども、これは生ごみではないので、持っていかないんですよ。これを事業系のごみとして出せば持っていってもらえると、非常に矛盾したところもありますし、他市はどういうふうをしているのか、そこをはっきりと勉強していきたいと思っておりますので、ぜひ御賛同いただければと思っております。

**○委員長（富士川厚子君）** ありがとうございます。ここで副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

**○副委員長（河田圭一郎君）** 富士川委員。

**○委員（富士川厚子君）** 私から、7番ですけど、今、京都市が、市役所が新しくなって、環境に配慮した庁舎ということで、令和4年も省エネ大賞とかカーボンニュートラル賞などを受賞されていますので、見に行けたらと思っています。

また、9番は五島市で、もしかしたら行かれています方もいらっしゃるかもしれませんが、浮体式の洋上風力発電や太陽光発電などの取組をしているので、ちょっと遠いんですけど挙げさせていただきました。

あと11番、生物多様性ということで、今、私は環境審議会にも入らせてもらっているんですけど、結構この生物多様性というのがこれから大きなキーワードになっていくということで、名古屋に生物多様性センターというのがありますので、なかなか、言葉では言っていることが分かるような気がするんだけど、実際どういうものかというのが私もあまりぴんときていないというか、これからの本当に大きなテーマになると思うんで、見に行けたらなと思って、名古屋市ですけど、参考で挙げさせていただきました。以上です。

**○副委員長（河田圭一郎君）** 委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

**○委員長（富士川厚子君）** 出口委員。

**○委員（出口成信君）** 私も今回、SDGs に関しての視察先は提案していなかったんですけど、以前、五島の洋上風力発電、再生可能エネルギーが、今もう五島は50%再エネなんですね。それでやっていて、洋上風力が全部行くと80%行くということなんです。何といっても地産地消ですよ。小型の浮体式で、そういうのが広がっていくということで、あとまた、五島市民電力、北九州市も電力会社を立ち上げていますけど、再エネが、ごみ電力なんですよ、やっぱりCO<sub>2</sub>を出しているところで。そうじゃなくて、太陽光とか洋上風力とかで、再エネで地産地消をやっていくというのがどういうふうに行われているのか見たいなと私も思っているところです。以上です。

**○委員長（富士川厚子君）** ありがとうございます。

今年度の行政視察を踏まえ、今年度、3地域ぐらい行ったんですが、来年度の視察先について、皆様の御意見を伺いたいと思います。御意見ありますか。井上委員。

**○委員（井上秀作君）** まず、今回、全庁的な予算の削減という話題が上がっておりますけれども、予算が削減されれば、これまでは行政視察は2泊3日の行程でございましたけれども、1泊2日になる可能性というのはどれくらいあるのでしょうか。まだ分かんない。1泊2日になった場合は、近隣2か所の視察ということになりますよね、多分。仮になった場合ですよ、2泊3日の場合というのは、同一の地域だけっていうわけにはいかないですよ。2か所くらい行かないといけないということになりますよね。ですから、1泊2日に仮にされた場合の視察のパターンと、2泊3日になった場合の視察のパターンと、違う方法を考えないといけないのかなと。

いずれにしろ、動線は大事だと思っていて、先ほど東京都の世田谷のお話がありましたけど、仮に1泊2日だった場合は、世田谷へ行って翌日江戸川へ行くとか、そういうのはオーケーなんですか。規則的には大丈夫なんですね。じゃあ1泊2日の場合はそんな感じになってしまうかなと思います。2泊3日の場合でも、あまりかけ離れたところに行くと大変だなと思いますので、やっぱり動線がいいところ。例えば東京へ行くんだったら、さっき名古屋という話があった、東京から名古屋なら新幹線ですぐですし、つくばも関東圏内ですからすぐですし、そのあたりの交通動線を考えながら視察先を選んでいただけるとありがたいかなと思いますが、いかがでしょうか。

**○委員長（富士川厚子君）** 森本委員。

**○委員（森本由美君）** 2泊3日で案をつくつといたほうが、出したほうがいいんじゃないかなと思います。だって、まだ決まっていないのに、と思います。

**○委員長（富士川厚子君）** 吉村委員。

**○委員（吉村太志君）** 今、井上委員からもありましたように、基本的には僕は委員長、副委員長に委任をしていきたいと思うんですが、今、井上委員が言われたように、動線が近いところ、移動がなるべく、今回こういうふうに委員の皆さんがしっかりいろんなところを出していただいているので、ブロックでしっかり地域分けをして。

一言言わせていただいたら、我々は今、防災の所管事務調査でもやっていますが、やはり同じ九州として、例えば熊本とか宮崎、この辺りでもいろんなことを考えられている部分もたくさんあるので、同じ九州の防災を考えるということも大切なことかなと少し思いましたので、今回も近隣の福岡市とかいろんなことを聞くことも、一人で行く場合もできるけど、みんなで聞くこともいろんな可能性があると思いますので、その辺のメニューはまた委員長、副委員長のほうでお願いしたいと思ひまして、提案させていただきました。

**○委員長（富士川厚子君）** 井上委員。

**○委員（井上秀作君）** もし仮にですけど、関東地域に行かれるんだったら、ぜひ日本航空を使ってあげていただきたいと。御存じのとおり、日本航空は1便減便が決定しております。いよいよ1日3往復。ここの空港ができたときは、1日6往復だったんですね。いよ

いよ半分になりました。いよいよ秒読みです。これで乗らなかったら、多分、日本航空は北九州空港から撤退します。

ですから、できるだけ、先日も僕は東京に出張があって乗ったんですけど、人が全然乗っていませんでした。あれじゃあそりゃ撤退してもこっちも文句言えんよなっていうレベルの乗っていなさですね。ですから、そういう状況ですので、もし仮に東京に行かれるんだったらぜひその辺を使ってあげていただきたいと思います。以上です。

**○委員長（富士川厚子君）** ほかに御意見ございませんか。よろしいですか。

それでは、本日の意見を踏まえ、各委員が共通して関心の高い案を基に、正副委員長で協議した上で優先順位を決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

以上で所管事務の調査を終わります。

本日は以上で閉会します。

---

環境水道委員会 委員長 富士川 厚子 ⑩  
副委員長 河 田 圭一郎 ⑩